

令和 8 年 5 月 13 日

文教厚生常任委員会

委員長 ひさなが 信也 様

文教厚生常任委員 林 哲 也

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 8 年 5 月 12 日（火）

岐阜県 飛騨市

「医療的ケア児家族の安心レスパイト支援」について

2. 視察参加名簿

委員長	ひさなが	信也	
副委員長	江原	健二	
委員	林	哲也	
委員	岩藤	睦子	
委員	綾城	美佳	
委員	橋本	憲治	
委員	尾崎	貴夫	
委員	田村	継	以上 8 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	岐阜県 飛騨市			
視察日時	令和 8 年 5 月 12 日（火） 9：30～11：30			
視察項目	「医療的ケア児家族の安心レスパイト支援」について			
対応部署名	市民福祉部総合福祉課、同地域生活安心支援センター			
自治体概要	人口（令和 7 年 12 月 1 日）	21,333 人	面積	792.53 km ²
	飛騨市は、岐阜県の最北端に位置し、3,000m を越える飛騨山脈などの山々に囲まれ、市域の約 93%を森林が占めている。飛騨市の一次産業は、飛騨牛をはじめとする肉牛の飼育と林業が主軸を担い、冷涼な気候を活かした野菜栽培も行われている。			
視察内容				
市民福祉部の次長兼総合福祉課長、総合福祉課地域生活安心支援センター主任から「医療的ケア児家族の安心レスパイト支援」についての説明を受け、質疑応答の後、議場の見学を行った。				
所 感				
飛騨市は、急速な人口減少と高齢化を「日本の 30 年後の姿」が先行して現れたものと捉え、弱みを強みに変える「人口減少先進地」を標榜し、専門的な知見に基づく独自の福祉施策を展開している。市の施策の根幹には「作業療法（OT）によるまちづくり」という基本理念があり、身体面（BIO）、心理・精神面（PSYCHO）、社会面（SOCIAL）の三面から、市民一人ひとりのウェルビーイングを支える体制を構築している。この理念に基づき、全国初となる市直営の児童精神科診療所「飛騨市こどものこころクリニック」を開設し、単なる医療提供に留まらない、行政によるソーシャルワークを実践している。また、全小中学校に作業療法士を配置する「学校作業療法室」の設置は、教育現場の負担軽減と、子どもたちの主体性や「できる」を増やす学びを両立させ、国からも「飛騨モデル」として高く注目されている。 医療的ケア児者支援においては、当事者家族が求めるニーズと、限られた医療リソースの乖離を埋めるため、市が主導して「レスパイトコーディネートチーム」を立ち上げ、隣接する高山市の公的病院と粘り強く協議を重ね、本来高齢者向けとされる「地域包括ケア病床」を小児レスパイト入院に活用するという画期的な仕組みを実現している。 特筆すべきは「自助」を支える「医療的ケア児者等タイムケア事業」である。これは、知人や元教員などの個人（インフォーマル支援）による一時的な預かりに対し、市が謝礼を補助する制度であり、フォーマルなサービスの限界を補完するとともに、家族が周囲に助けを求めやすい環境を醸成している。 社会参加の推進についても、重度障害者の市役所雇用や、民間企業での就労を支えるための「職場介助者（ヘルパー）派遣費用」の全額助成など、障壁を取り除く施策を次々と立案しており、また、個別のライフイベントに合わせた特別支援枠の創設により、当事者の「やりたい」を実現させている。ハード面では、当事者目線で優先順位を付けた「フルスペック・バリアフリートイレ」の整備を進め、その設置情報をアプリや Google マップで可視化することで、外出の安心を担保している。 これらの施策は、市長自らが現場を訪問し、当事者の切実な声を直接政策へと昇華させる姿勢に裏打ちされており、市民と行政が「共に考え、できることから実行する」ことで、限られた資源の中でも持続可能な地域共生社会を実現できることを示す先駆的事例となっている。今回の視察で得たエッセンスを、今後の政策提言に積極的に活用していきたい。				